

話題

季節の便り

○観光より美味しいもの

初冬の快晴無風日、妻を誘ってドライブに出ることにした。久しぶりに海を見たいと思いい、三保の松原を目的地とした。ところがいざ準備して南方上空を窺うと、厚い雲に覆われていた。そこで急ぎよ逆方向の長野方面にハンドルを向けた。そちらは真っ青な空が広がっていた。今年はず暖冬と言われているが、美しい紅葉がすすむ山々を見ながら行先を考え、国宝松本城を目的地とした。実は、松本市に車で行った場合、必ず立ち寄る店がある。それは「さかた」というおやき専門店である。長野道松本インターを降りて野麦街道（国道158号線）を上高地方面に2キロほど行くと左手にある人気店で、具がたっぷり表面が餅のような衣で覆われ、とても美味しい。最近では通販でも買えるというが、やはり現地に行つて焼きたてを食べたい。そこで先に「さかた」に行くことにした。ところが着いてみると店舗がない。ネットで調べると、安曇野市穂高に移転していた。更に30分ほど北に向かわなければならぬ。さてどうするか思案したが、丁度昼時でもあり、観光より「食べたい」気持ちで勝り安曇野に向かった。到着すると、そこは素晴らしい景観の地で、広くなつた駐車場や店舗には、相変わらず県外からの車や人で溢れていた。やはり熱々のおやきは格別であった。



(T・M)

役員が「NUT」

地区防災計画の策定を

平成三十年九月三十日の夜中の十一時過ぎ、台風二十四号のため私の住む地区に「避難勧告」が出ました。事前の「避難準備情報」もなく、いきなりで、殆どの住民が自宅の安全な場所を待機しようです。

現在、地区の自主防災会の役員も務めている関係上、住民の防災減災への要望をよく耳にします。中でも、過去に例を見ない豪雨や強風や大型台風等の接近時に「どう対処すべきか、どこに避難すべきか」との話が出ます。そのため、独自の「地区防災計画」が必要と思いますが、先日の山梨日日新聞によると、専門知識を持った指導者不足のため「つくりたい気持ちはあるが『できない』という現状のようです。

突然に警報が出された時にも、地区住民の速やかな避難行動を促す「地区防災計画」を早期に策定しておく必要を痛感します。そのためには、専門知識を有する人材の確保と、指導者の立場を担える「減災リーダー」の育成が大事だと思えます。平成三十年の「世界防災シンポジウム」で、韮崎市の内藤久夫市長が「韮崎市の地域減災リーダー育成の方針と成果について」を発表され、また、九月に「減災ネットやまなし」が活動実績を評価されて、防災担当大臣表彰を

受賞しました。韮崎市は確実に、一歩進んだところを走っていると思います。今後も行政と地域が一致協力し、地域環境に密着した実践的な「地区防災計画」を策定できるようにして行きたいものです。  
理事 吉岡 克美

会員募集のご案内

特定非営利活動法人減災ネットやまなしは、ともに「減災力のある県土づくり」に取り組んでいただける会員を募集しています。

- 年会費 ○個人会員 三千元  
○法人会員 一万円  
○賛助会員 三万円  
申込は、当該法人事務局へ  
電話・FAX 055112315656

編集後記

減災ネットやまなしも設立から十年目を終えようとしている。その間、ずっと広報『減災ネットレター』を出し続けてきた。県のNPO担当者によると、山梨県内のNPO法人で、ホームページがあり、広報を出し続けているのは減災ネットやまなしだけということで、「継続は力」という言葉を借りると、ある程度は力がついてきたのであろうと思う。このところ活動も活発になり、発信すべき情報も多様化していることから、A4サイズの4ページでは情報が掲載しきれないのが、編集担当の悩みである。  
(亨恵夢)

第11・12期新役員 (2019年度以降予定)

理事長	山田 久均	建生 久均
副理事長	滝田 政樹	江正 孝彦
副理事長	栗林 伸政	野村 正孝
副理事長	牛丸 武上	澤川 清正
理事	上田 小皆	山宮 比古
理事	向雨 岩村	川村 龍美
理事	皆今 小吉	岡内 公明
理事	横野 保樹	坂形 耕平
理事	野矢 崎屋	土屋 昭幸
理事		栄 幸一
監査		
監査		

減災力のあるまちづくり  
事業所づくりをめざして

減災ネット

第10号

発行日 ●平成31年1月31日  
発行者 ●向山 建生

山梨県韮崎市上祖母石725番地 TEL・FAX.0551-23-5656  
URL http://park12.wakwak.com/~gnety/

減災ネットやまなしの目的

特定非営利活動法人減災ネットやまなしは、生活小地域（自治会・班・組）の住民や事業所内の役職員・従業員が平素から自主的に減災の体制や規則を整え、自助力・共助力を高めておくことで、日々を安心して暮らせる地域社会の創造と、安心して仕事のできる職場環境の創造に寄与することを目的としています。（定款から）

高く評価されている韮崎市の防災・減災政策

- ◆高く評価されている韮崎市の防災・減災政策  
平成二十一年度には「減災力の強いまちづくり協定」を締結してから丸九年が経過しました。この間に韮崎市は防災・減災に関する多様な事業を展開してきました。その中で、他市に見られない特徴的な取り組みをあげますと、  
① 地域減災リーダー育成  
② 特定地区総合防災訓練  
③ 施設利用合意書の締結  
④ タイムラインの導入  
⑤ 地域減災マップの作成  
⑥ 減災フォーラムの開催  
⑦ 減災出前塾の開催  
等です。いずれも体系的・計画的・段階的に持続させていることが、市民の関わりを増加させ、減災意識を醸成させています。そのことが評価され、平成三十年度は国・国際レベルの表彰と発表がありました。

◎防災担当大臣表彰

九月十三日(木)に内閣府で平成三十年「防災功労者防災担当大臣表彰」を減災ネットやまなし他全国十五団体が小比木大臣(写真左端)から受け、受賞の記念品として素敵なクリスタル時計をいただきました。



◎国際シンポジウムで内藤韮崎市長が発表

韮崎市の地域減災リーダー育成方針と実績が国に評価され、九月十八日(火)に東京都内で開催された「地域防災を担う人づくり国際シンポジウム」で、全国の市町村を代表して内藤市長が発表されました。(写真)海外からは、アメリカ、ドイツ、フィッラン



下が参加し、それぞれの特徴的な取り組みが紹介されました。  
◎韮崎市地域減災リーダー育成事業の第二次方針  
平成二十四年五月にスタートした地域減災リーダー育成の一般市民向け研修は、韮崎市民交流センター「ニコリ」を会場に行ってきましたが、平成三十年六月開催の第十五期をもって終了し、今後は  
① 出前型育成  
② 集中型育成  
に切り替えることになりました。出前型とは、指導者が地域の公民館等に出向いて一日研修を行い、集中型は市役所別館で二日間に亘り五教科すべてを受講できるものです。

◆始まった北杜市の防災・減災三カ年計画

平成二十八年度末に減災ネットやまなしと「減災力の強いまちづくり協定」を締結した北杜市では、平成二十九年度に「防災・減災対策三カ年計画」を作成し、その初年度として

- ① 地域減災リーダー育成  
② 減災出前塾  
③ 二事業をスタートさせました。

◎地域減災リーダー育成

「機能する自主防災組織の構築」を主たる目的とした人材育成で、以下の五教科を受講し、認定試験に合格すれば北杜市公式認定の地域減災リーダーとなります。

- ① 減災基礎  
② 家庭の減災 (LCP)  
③ 地域の減災 (ACP)  
④ 避難所の開設と運営  
⑤ 普通救命基礎

◎減災出前塾

地域や諸団体に適した減災学習ができるよう、七月の広報に研修プログラムを掲載し、年内に市内九地域・団体の要望に応えました。



いあいさつ

特定非営利活動法人減災ネットやまなし 理事長 向山 建生

平素は特定非営利活動法人減災ネットやまなしの運営と活動にご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

おかげさまで当NPO法人は、平成三十年度に十周年を迎えました。設立のきっかけになりました平成七年一月の阪神・淡路大震災から早二十四年が経過し、設立二年目に発生した未曾有の大災害東日本大震災からは多くの教訓を得ました。それ以降も自然災害が多発し、平成三十年度も大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震等で大きな被害が発生し、夏には太平洋高気圧の上空にチベット高気圧が重なり、記録的な猛暑が続きました。このことから私たちは、我が国は自然災害の多い国であると断定したいところですが、それをすぐに忘れ、いつの間にか無防備になりがちです。そうならないよう、家庭や地域や職場で小さな整備と訓練を繰り返し、いつの日か、その日に「やっつけてよかった」と安堵できるため、今後も多くの方々と共に考え、行動し、減災力のある家庭づくり、地域づくり、職場づくりにまい進する所存です。

これからも、ご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。



情報

◆ 韮崎市から

全国各地で多発する自然災害。平成三十年  
度においても、大阪北部地震を始め、北海道胆振  
東部地震では、北海道で観測史上初となる震度  
7の揺れを観測し、広範囲で土砂崩れが発生し  
たほか、道内全域が停電となる「ブラックアウ  
ト」も発生しました。

また、気象災害においては、平年よりも多い  
29個の台風が発生し、本市においても台風12号  
の際には市内全域へ「避難準備・高齢者等避難  
開始情報」を発表し、台風24号では市内の一部  
地域に土砂災害発生危険性が高まったため「避  
難勧告」を出しました。

幸いにして今回の台風で甚大な被害はありま  
せんでしたが、塩川や釜無川など、大・小河川  
が市内を流れる本市においても、西日本豪雨災  
害と同様に洪水や土砂崩れ等の可能性が考えら  
れます。市民の皆様におかれましては、市役所  
や気象庁が発表する避難に関する情報や、気象  
情報に注意して、逃げ遅れゼロに繋げていた  
けますようお願いいたします。

★地域減災リーダー育成事業を世界に発信

九月十八日、東京都内で「地域防災を担う人  
づくり」をテーマにした国際シンポジウムで、  
全国の市町村を代表して内藤市長が本市の「地  
域減災リーダー育成事業」に関する取組を紹介  
しました。当日は国内外から自治体代表者や消  
防関係者三百名が参加し、地域防災における取  
組や課題等について情報共有しました。本市の  
現在の地域減災リーダー認定者は五百三十名を  
越えています。

最後に、市民の皆様には、お住いの地域の防  
災訓練に積極的にご参加いただくとともに、日  
頃から各家庭で非常用持出し品の準備や家具類  
の固定、家族で災害時の行動について話し合い、  
「自助」「共助」の考えのもと、地域及び一人ひ  
とりが災害に備えていただけますよう引き続き  
お願いいたします。

◆ 韮崎市減災マップの整備事業

山梨県内で地区防災計画の策定が推奨されて  
いますが、地区事情や、策定に専門性を必要と  
されるなど難しい状況です。そこで韮崎市では、  
「自地区の安全性をよく知り」、「初動規定を整  
備すること」で、地域減災リーダーと連携して  
効果的な訓練や整備が進むよう減災マップの作  
成づくりを推進しています。

平成三十年度も、旭町山口地区で行われ、多  
くの住民が参加して「歩いて安全性を確認しな  
がら情報収集し（写真上）」、「一時避難場所や  
避難経路の安全性を検討して（写真中）」、自  
分のマップを作成しました。（写真下）  
今後は、作られたマップをもとに訓練を実施  
し、段階的に見直していきます。



◆ 韮崎市特定地区総合防災訓練

これまで北西小学校、韮崎小学校、穂坂小学  
校、韮崎西中学校で毎年実施してきた特定地区  
総合防災訓練は、平成三十年度は甘利小学校で  
行われ、併せて本年度から四年前に実施した指  
定避難所を対象としたフォロアップ訓練を行  
いました。フォロアップ訓練では、前回に締  
結された施設利用合意書に従う訓練を行い、合  
意書の改定も行いました。

◆ BCCP研究プロジェクトの視察

やまなしBCCP/LCP研究普及プロジェクト  
トでは、平成三十一年一月三十日（水）に第四  
回先進地視察を実施します。今回は、沼津市の  
民間福祉施設と富士市を視察します。

◆ 中央防災会議による「降積雪期における  
防災態勢の強化等について」

前年度からの主な変更点

- 一 災害初動体制の確立等
- ◎ 適切な道路管理及び交通対策・各道路管理  
者の連携を追加・広域迂回及び需要抑制の  
呼びかけ、車両待機場所の確保等、道路ネ  
ットワーク全体への影響の最小化に努める  
ことを追加
- 二 住民等に対する普及啓発・注意喚起等
- ◎ 車両の運転等について・大雪時には、スタ  
ッドレスタイヤを装着してもなお、立ち往  
生するおそれがあるので、チェーンを装着  
又は携帯することを追加
- 三 事故防止に向けた普及啓発・注意喚起
- ◎ 「歩行型ロータリ除雪機による事故防止」を  
新規項目として追加・除雪機にひかれる、  
除雪機と壁等に挟まれる等の事故防止のた  
めの留意点について注意喚起
- 四 除雪体制等の整備
- ◎ 道路管理者によるタイムラインの策定や除  
雪機械の配備を追加（総務省HPより）

◆ 子どもたちが減災を学ぶ

◎ 親子で減災体験学習（韮崎市）

韮崎市旭町竹ノ内地区で八月十一日（土）、親  
子で学ぼう「親子防災・減災教室」が開催され、  
約三十名の親子が楽しく学びました。

- ① 情報伝達訓練（写真上）
- ② 暗闇体験（写真中）
- ③ 炊き出し体験（写真下）



取材ノート

平成三十年十二月二十五日（火曜日）、韮崎  
市役所で総務課危機管理担当の根津昭彦さん、  
若尾幸佑さん、建設課管理担当の大柴純一リ  
ーダーの三人に嶋田均副理事長がインタビューし  
ました。

Q 昨年は全国的に災害が多発しましたが、韮  
崎市の防災情報の伝達、対応についてお伺  
いします。

A 全国で避難情報の伝達方法や夜間避難のあ  
り方に課題を残しました。本市においては、  
台風12号の接近により「大雨・暴風警報」  
が出されたのを受け、土砂災害、低地の浸水  
河川の増水、強風に対して留意するよう情  
報伝達し、その後、午後四時十九分に「避  
難準備・高齢者等避難開始」を発表しました。

A また、九月三十日の台風24号では、午後四  
時三十二分に「大雨・暴風警報」が発表さ  
れましたので、市は台風接近に伴う自主避  
難を呼びかけ、臨時避難場所を市役所内に  
開設し、その後、午後十時十分大雨によ  
る「土砂災害警戒情報」が出されたことから  
円野町・清哲町・神山町・旭町に避難所を  
開設し、午後十時五十七分に「避難勧告」  
を出しました。全体で十六世帯四十名が避  
難されました。市内では倒木や停電などが  
ありましたが、大規模な被害はありません  
でした。今後も早めに正確な情報発信に努  
めてまいります。

Q 河川や土砂崩れへの対応は？

A 建設課でも大雨が予想される時は、河川に  
設置されている水門の閉門や、市民情報に  
よる対応、強風による倒木等の処理など広  
範囲に渡って対応しています。

A ハザードマップの更新も検討しており、県  
とデータの分析を行いより分かりやすいマ  
ップを作成して参ります。

◎ 親子で減災体験学習（北杜市）

北杜市白州町白須地区でも八月十九日（日）、  
避難訓練に合わせて「親子防災・減災教室」が  
開催されました。約百名の親子が参加され、

- ① 避難訓練（写真上）
- ② 情報伝達訓練（写真中）
- ③ 暗闇体験（写真下）



◎ 中学生の減災体験学習

北杜市白州中学校で、「中学生が避難所でで  
きることをテーマに、十一月十九日（月）に  
体育館内で実践的な活動を学びました。

- ① 避難所開設の優先機能（写真上）
- ② 避難生活のスペース確保法（写真下）



◆ 定着した災害ボランティアセンターの  
開設訓練

今回で三回目となる韮崎市の災害ボランテ  
ィアセンターの開設訓練は十一月十七日（土）  
に市役所別館で行われました。

今回は穂坂地区、藤井地区から  
約四十名が参加し、市福祉課職  
員による開設・運営訓練と、市  
民が運営に関わる訓練を行い、  
概ね順調に進行しました。



Q 避難所の整備、訓練は？

A 北海道胆振東部地震では多くの被害が出ま  
した。いつ起こるか分からない災害に、整備  
訓練を計画的に取り組み、市民が安心して  
暮らせる地域を守っていきたくないと考えてい  
ます。

お忙しい中、ありが  
とございました。

減災ネットやまなし  
も、継続して韮崎市の  
「減災力の強いまちづ  
くり」に寄与したいと  
考えています。  
よろしく、お願いい  
たします。



◆ 第十回減災フォーラム

○日時 平成三十一年二月二十三日（土）  
午後一時半から

○場所 東京エレクトロン韮崎文化ホール

○プログラム

- ・ 開会セレモニー
- ・ 第一部 スキルアップ研修
- ・ 第二部 基調講演

講師

災害伝承十年プロジェクト 語り部 吉田亮一氏

演題

「住民主体の地域防災とは」

～東日本大震災 あの日あの時～

○参加費 無料

○申込・問合せ

韮崎市総務課危機管理担当  
電話 〇五五一（二二）一一一

活動